
貴方が必要なの。

桜桃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

貴方が必要なの。

【Nコード】

N2387M

【作者名】

桜桃

【あらすじ】

哀ちゃんの気持ちです。
黒の組織が壊滅した。
でも、新一が必要だとわかり、
恋人の蘭に ？
あくまでも、新蘭です。

欲望

黒の組織が壊滅して、

蘭さんと工藤君は結ばれた。

これでよかったの。

でも、私を必要としてくてる人が

いなくなってしまった。

工藤君が好きというわけではない。

でも、今の私には、工藤君が必要なの。

「哀ちゃん！ねえ、これ、どう思う？」

「・・・」

「哀ちゃん？」

「蘭さん、工藤君を譲って。

今の私には、工藤君が必要な。どうしようもなく。

半年間も工藤君を奪っておいて、こんなこと言う資格はない。

でも、身内がない私は、工藤君以外、頼れる人はいないのよ。」

はっ。

つとした。

蘭さんにこんなことを言うつもりはなかった。

「哀ちゃん・・・」

でも、私の欲望はきいてはくれない。

「おねがい！蘭さん。

工藤君が居ないとわたし、どうにかなりそうなの。
必要としてくれる人がいないみたいで・・・

邪魔なの！蘭さんが、邪魔なの！！

私の幸せを奪わないで！！！！！！」

本音がでてしまった。

もちろん、蘭さんが邪魔だなんて思っていない。

むしろ、感謝していて、本当のお姉ちゃんみたいで、憧れなのよ？

「い、ごめんなさい。どうかしてるわ。
最近、寝不足なの。忘れて？」

「哀ちゃん・・・ごめんね？」

ダッ．．．

「蘭さん!」

蘭さん、泣いてたわ．．

私のせいよ．．．

でも、忘れてといったし、本気には、してないわよね？

欲望（後書き）

お望みの小説のならない場合もあります。
ご了承ください。

嘘でしょう・・・？

「灰原！」

「工藤君・・・」

「蘭のやつ、なんか言っていなかったか？」

「どうしたのよ。」

「急に別れようって言いやがって・・・
納得できるか！！」

え。

まさか、蘭さん、本当に・・・

「あ、灰原。手紙がささってたぞ。」

「ありがとう。」

封を切った。

” 哀ちゃんへ

哀ちゃん。ごめんね。

哀ちゃんの気持ちも知らず、勝手に浮かれて。

傷つけたね。少しでも、哀ちゃんの傷が癒えるなら、新一を渡します。

私は大丈夫よ？だから、安心してね。

P.S.

私の努力は無駄にしちゃだめよ？

蘭”

ら．．．んさん．．．

私のせいで．．．

でも、蘭さんのためには、
むだにしちゃいけない。

ありがとう。蘭さん。

嘘でしょう・・・？（後書き）

注意点。

私の努力を無駄にしちゃ駄目よ？

の部分は、

哀が私のせいでと自分を責めないように
した、蘭の精一杯の優しさなので。

ごめんなさい。そしてありがとうございます。

工藤君は、私に変わらず接してくれる。

でも、いつもの工藤君はこうじゃない。

もっと、自信にあふれてた。

「工藤君。珈琲いれたんだけど……
寝ちゃってるのね。」

私は毛布をかけた。

「ん．．．ら．．ん。」

「え？」

「ら．．ん．．すき．．だ．．」

「工藤君．．．」

私、どうして、こんなことに気付かなかったんだろう。

ごめんなさい。工藤君。そして、蘭さん。

私は間違ってたわ。

私は工藤君と必要としてる。

これは変わらないの。

でも、本当に工藤君だけかしら？

吉田さんや、円谷君。小嶋君。

博士。

たくん。たくん。

いるじゃない。

私が必要としている人たちが。

ほんと、ばかね、私。

「工藤君、起きなさい。蘭さんが来たわよ。」

ガバッ

「ごめんなさい。嘘。」

「なんだよ……はあ。」

「工藤君、蘭さんは、工藤君のこと好きよ。」

「すきなのに振るわけねえだろ。」

「ごめんなさい。私のせいなの。」

私はあのときのことを、全部話した。

「そういつことなの。」「ごめんなさい。」

「さんきゅー灰原！」

「おこら・・・ないの？」

「ちゃんと話してくれただけで十分さ！」

「つたく、お人よしなんだから。
ほら、早く行きなさい。」

「
ああ。」

工藤君と蘭さん。

1つ借りができたわね。

ごめんなさい。

そして

ありがとう。

ごめんなさい。そしてありがとう。（後書き）

哀「意味わかんないんだけど。」

桜桃「ごめんなさい・・・」

哀「蘭さんならまだしも、なんで工藤君にまで借りをつくらなきゃいけないのよ。」

桜桃「許して!!」

哀「次のお話に、工藤君が最悪な目にあう。
っていうなら、許すけど?」

桜桃「具体的に?」

哀「蘭さんが他の男とデートとか。」

桜桃「わかった!許してくれるなら、かく!!」

新一「おい!」

桜桃・哀「いたんだ。いたの。」

桜桃：っということ、新一の最悪な事態。
書いてみようかな？って感じです。

幸せ

あれから、1年後。

蘭さんと工藤君は見事、

本当の夫婦となったのだ。

勿論、私がした罪はちゃんと償ったわ。

償うというよりも、蘭さんが、理科の生物を覚えてくれ。

ただそれだけのことだった。

2人とも、本当にお人よしなんだから。

コンコン

「どーぞ？」

「蘭さん。」

「哀ちゃん。来てくれてありがとう。」

真っ白なドレスを着込んだ蘭さんは天使よりも美しく、

私でも見ほれてしまった。

「紫のドレス。似合ってるね。」

「ありがとう。蘭さんも綺麗だわ。」

「工藤君にわたすのがもったいないくらいよ？」

「本当？クスクス。」

「こんなに綺麗なら、工藤君には本番まで見ないでおいでほしいわね。」

園子さんと和葉さんに頼んで、工藤君はいれないようにしておかなきゃいけないわ。」

「哀ちゃんつたら・・・」

「蘭さん、ごめんなさい。」

「いいの。もう、いいんだよ？哀ちゃん。だって、私達は友達でしょ？」

「友達って・・・随分年の離れた友達ね。」

「本当は哀ちゃんのほうが1歳年上でしょ？友達は友達だよ。」

「蘭さん・・・」

「哀ちゃんが一番つらかったんだよね？
だれかに支えてもらいたかったんだよね？
だから、私は支えたいと思ったただだよ？
もっと、誰かに頼っていいんだから。」

「蘭さん・・・でも、私は、可愛げのない女だから・・・」

「前にも言っただでしょ？哀ちゃんはどんな女の子よりも魅力的だよ？
それは姿だけじゃない。中身も。」

前、哀ちゃんが言っただよね？一回黒く染まってしまった心は白には戻れない。

悪魔は天使にはなれないの。悪魔は所詮、悪魔のままなのよ。つて。

哀ちゃんは、十分真っ白な心をもってるよ。」

「え？」

「哀ちゃんは悪魔なんかじゃない。もともと天使なんだからね？
心だって、黒くなんて染まってるじゃないよ。
だから、歩美ちゃんたちと居られるし、こうして、私と話してる
でしょ？」

「蘭さん……ありがとう。
私、男だったら、工藤君から蘭さんを奪ってたかもね？」

「え？」

「私も、蘭さんほど、魅力的な人はいないと思うわ。
だって、あの、工藤新一が選んだ女ひとよ？
それに、蘭さんは、女の私から見ても、惚れちゃいそうになるくら
い、
すごいひとだと思うから。」

「
ありがとう！！」

私は、綺麗な天使がいる部屋をあとにし、

式を今か今かと待ちわびている

おばかな探偵さんの部屋へと向かった。

幸せ（後書き）

哀「本当、蘭さんには感謝してるわ。」

桜桃「新一には？」

哀「なんで工藤君に感謝しなきゃいけないのよ。」

桜桃「ほら、許してもらったし？」

哀「あれは勝手にあなたが書いただけよ。」

桜桃「そうでした。すいません・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2387m/>

貴方が必要なの。

2010年10月9日22時56分発行